



NEWS LETTER かながわ

2020年度第2号(通巻第28号)

2021年3月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail:jacdpkanagawa@gmail.com

今年度、神奈川支部は、新型コロナウイルス感染症のため支部総会も Web 上での実施、通常の資格更新研修会が中止、今回の研修会をオンラインで開催という初めて尽くしの1年となりました。2020年度第2号ニューズレターは、2020年度神奈川支部研修会の報告を中心にお送りいたします。



神奈川支部研修会報告

2021年2月23日(火)に、2020年度神奈川支部研修会をオンラインで実施しました。支部としてオンラインで研修会を実施するのは初めてだったため、アクシデントもありましたが、支部の役員も含め28名の参加がありました。今回は、ポイントは付与できませんでしたが、有意義な研修会となりました。参加した会員の皆さんありがとうございました。

研修会開始にあたっての挨拶

支部長：蘭牟田洋美

本日は研修会にお集まりいただきありがとうございます。ようやく今年度第1回目の研修会の開催の運びとなりました。長期に渡るコロナ禍で、誰もが心身にさまざまな影響を受けています。若者の自殺の増加や高齢者など弱者への虐待の急増などマスメディアが毎日取り上げています。そういうときだからこそ、月並みですが学びを止めないことが大事だと思っています。教育現場に目を向けますと、大学・高校・中学を中心にオンライン授業が展開され、ITを使った学習の重要性を痛感する時間でもありました。本日の講演はITを活用した教育現場での取り組み、魔法のプロジェクトを展開されている佐藤先生、盛光先生をお迎えしました。ご講演は産学公の連携の在り方と、今まさに皆様のお仕事やご家庭にヒントを与えてくださる内容だと確信しています。

さて、今年度より神奈川支部は新体制となりました。副支部長兼幹事に吉川知夫氏、研修担当役員として小林太郎氏の2名をお迎えし、総勢16名となりました。2021年度は総会や研修会はオンラインで行っていく予定です。しかし、一方通行ではなく、神奈川支部ができることを会員の皆様と双方向で考えて立案する1年間にしたいと考えております。なお、5月に開催予定の総会では261名の神奈川支部会員の皆様の声を支部役員まで届けてくださるようお願い致します。

新役員の吉川先生、小林太郎先生も早速、Zoomの準備やホストをしていただきました。



講演会 I

テーマ： 「テクノロジーを支援に役立てる 魔法のプロジェクト の紹介」

講師： 佐藤里美氏（魔法のプロジェクトディレクター）

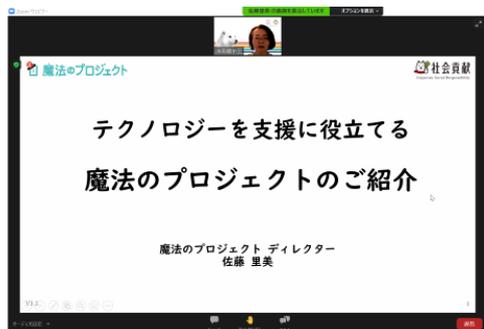
まず初めに株式会社ソフトバンク人事総務統括 CSR 本部参与、東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野協力研究員で、魔法のプロジェクトディレクターでいらっしゃる佐藤里美先生から魔法のプロジェクトについての概要と、今後の教育現場での ICT 利用を検討していく上でベースとなる GIGA スクール構想で導入される端末についての基礎的なお話を伺いました。

魔法のプロジェクトは、ソフトバンクの「情報革命で人々を幸せに」という経営理念に基づいた 5 つのテーマのうち、次世代育成の領域で実践されているプロジェクトです。魔法のプロジェクトでは、特別支援教育の分野で ICT 機器を利用して障がいのある子どもたちの生活や学習を支援しています。文部科学省の後援もあり、これまで 1 年単位で 10 年間実践を積み重ねてきています。基本的にプロジェクトへの参加は現場の先生からの応募となりますが、参加に際しては通信関係の補助も含め 1 年間無償で対応していただけるそうです。今年度からは自治体単位での参加も可能となり、一個人による取り組みから、継続可能な自治体単位での実践へとその取り組みを広げています。研究協力校（自治体）を中心として、ソフトバンク、東京大学先端技術研究センターと協力企業 3 社（日本マイクロソフト株式会社、光村図書出版株式会社、株式会社バイトルヒグマ）の座組のもと実践されます。魔法のプロジェクトでは、優れた実践研究を行った先生を「魔法のティーチャー」として認定しています。現在魔法のティーチャーは全国で 15 名が認定されています。さらに、より指導的な役割を担う魔法のマスターティーチャーとして全国で 5 名の先生が認定されています。魔法のプロジェクトでの実践は、魔法のプロジェクトのサイトや「特別支援教育で役立つ！ ICT 活用法（学研プラス）」で確認できるとのことでした。

魔法のプロジェクトは 2009 年から実践を開始されています。当初は今でいうガラケーを使用していました。2011 年の iPad の登場から iPad を使用し始めたとのこと。当時は iPad は貴重なものであり、使用するためには申請が必要な場合もありましたが、今後は GIGA スクール構想によって生徒児童に一人 1 台の端末が配布されることとなり、教育現場における ICT 機器の整備状況も大きく変化をしていく予定です。

GIGA スクール構想で導入される端末には 3 種類（Chromebook、iPad、Windows タブレット）あり、かつ、Wi-Fi のみのモデルか、LTE+Wi-Fi のモデルかの組み合わせがあるそうです。それぞれの端末によってメリット・デメリットが異なり、自分がかかわる学校でどの端末が導入されているかを事前に確認しておくことが重要とのことでした。また、アプリのダウンロードにかんしては個々では行えず教育委員会に申請が必要になる場合もあり、各自治体での管理方法についても確認しておく必要があるとのことでした。

今回は短い時間の中でお話いただいた関係で、魔法のプロジェクトの概要についてご紹介いただきました。今年度より新しく自治体単位での取り組みも始まったとのこと。いずれ自治体単位での実践のお話もお伺いできればと思います。
(文責：須田恭平)



佐藤里美氏

講演会 2

テーマ： 「先生、私の苦勞に気付いていますか？～読み書きの苦手を ICT で補う～」

講師： 盛光秀之氏（川崎市総合教育センター、特別支援教育センター）

川崎市総合教育センター、特別支援教育センターにご所属で、魔法のティーチャーでいらっしゃる盛光秀之先生に読み書きに困難さを抱える生徒への実践についてお話いただきました。

報告していただいた対象者は現在中学 3 年生の女性で、小学 5 年生からの支援の経過についてお話いただきました。相談開始当初の主訴は、本人は努力しているがなかなか学習が定着しない、漢字が覚えられない、読めない、書けないとのことでした。読み書きだけでなく、思考や性格や行動について、困難さだけではなく良さや強みについてもアセスメントを行い、支援の方針を立てられました。読み書きの問題は全般的な学習を困難にしますが、その背景には情報の入力と出力がスムーズでない問題が多くみられます。ICT 機器を利用して入力と出力をスムーズにするような本人に適した学習方法を体験することで、失われていた学習意欲を取り戻せることをねらいとして支援を開始されました。講演では辞書アプリや筆順アプリ、音声教材などについて紹介していただきました。しかし、先生のお話では、良いアプリがあっても与えるだけでは本人が学習するようにはならず、本人の意欲や体制が整っていないと生かされないとのことでした。導入するアプリがアセスメントのアプリなのか、訓練用のアプリなのかといったアプリの性質を理解した上で、本人の学習の進捗状況に合わせながら導入していく必要があるとのことでした。実践報告の中でも、先生が本人と LINE や By Talk で何度もやり取りをされながら、心理的なサポートと学習の状況の確認について丁寧に行われている様子が印象的でした。そういったサポートを通じながら、当初は本人も読み書きの障がいに対して認めがたい気持ちが強く、教室での iPad の利用に対して否定的でしたが、現在は人権作文で「私の求める合理的配慮について」というテーマで作成するなど、傷つくこともありつつも内面的な成長も見られているとのことでした。

在籍校との連携についてのお話もありました。在籍校に対して通常の反復練習のような方法ではなく、本人の特性にあった音声から学ぶ練習をお願いしたそうです。また、聞くことに集中するためにノートテイクを重要語句だけなど絞って行うことを提案されたそうです。本人の支援を行うためには学校との連携が肝になりますが、その際にまずは保護者ときちんと必要な支援について確認を行っておくことが重要とのことでした。その上で学校と連携していくことが必要であり、報告の事例でも中学校では iPad の使用やテストの別室での受験が認めてもらえたとのことでした。

今後すべての児童生徒に ICT 端末が配布されますが、端末が配布されるだけで読み書き障害の子が学習しやすくなることはありません。機器の性質を知り、その子その子に最適化できる専門家が必要になってきます。得意不得意のわかる分野ではありますが、私たち臨床発達心理士側もアップデートしていく必要があることを先生のお話を聞いて強く感じました。

途中運営側の不手際もあり、何度か講演が中断してしまいました。盛光先生の実践についてゆっくりとお話を聞かせていただく機会を改めて企画していければと考えています。

（文責：須田恭平）

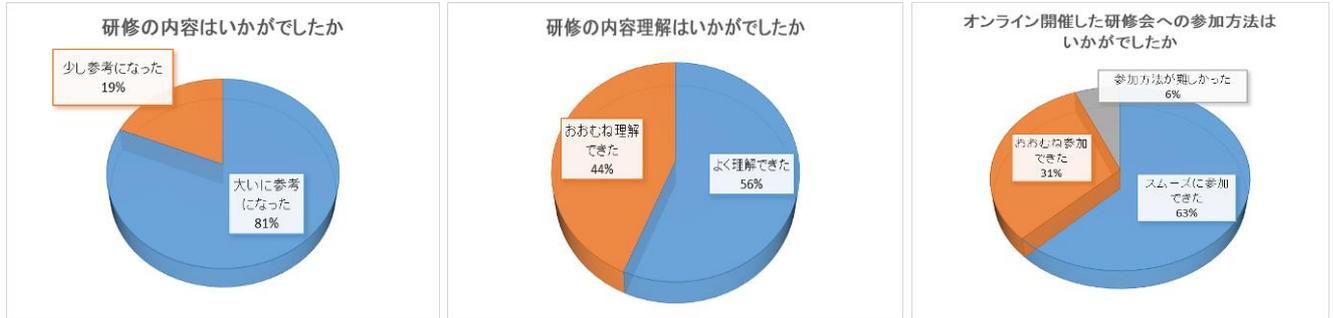


盛光秀之氏

*アンケートにご協力いただきありがとうございました。ご意見・ご感想を抜粋、一部省略し掲載させていただきました。

神奈川支部研修会についてのアンケート結果

- ◆ **講演1：「テクノロジーを支援に役立てる 魔法のプロジェクト の紹介」**
講師：佐藤里美氏（魔法のプロジェクトディレクター）
- ◆ **講演2：「先生、私の苦勞に気付いていますか？～読み書きの苦手を ICTで補う～」**
講師：盛光秀之氏（川崎市総合教育センター、特別支援教育センター）



◇研修会について

- ・具体的な事例やアプリを元にお話しいただき、とても勉強になった。学習が難しい子どもたちの支援を考えていく際に参考になった。また、アプリそのものではなく、それを使って子どもたちにどう目的を持ってもらうか、気持ちを課題に向けてもらうかが大事だということ、肝に銘じていきたい。
- ・ICTの活用は、学校現場ではタイムリーなテーマで、大変ためになった。
- ・担当しているお子さん方の顔を思い浮かべながら聞かせていただいた。
- ・支援者側がどのような目的をもってアプリを使うかをしっかりと考えることが大切だと改めて教えられた。
- ・出来たら画面がフリーズせず講師が当初予定してくださった内容(特にビデオ)を聞きたかった。

◇運営面について

- ・初めてのオンライン研修会ということもあり、ハプニングはあったが、講師の先生がポイントを話してくださったので、学ぶことが多かった。
- ・通信の問題はあったが、初めてのオンライン研修への第一歩を踏み出したことは貴重。
- ・やってみなければわからなかったオンライン研修の難しさ。臆することなくやってほしい。
- ・zoomになかなかサインインできなかった。実際の研修会であれば、ポイントもつかなくなったことを考えると今後は不安である。

◇今後の支部主催の研修会について、テーマ、講師、形式等への、ご意見やご希望

- ・コロナが落ち着けば、対面型での小規模の場も企画してほしい
- ・オンラインという形の研修会でも講師の先生のお話を伺えるのは貴重な学びだった。
- ・保育所等訪問支援の実際
- ・いずれ対面でのものこそ、支部研修会で行ってほしい
- ・動画をふんだんに入れた事例をベースとした講義形式なら、オンラインでもよい。
- ・盛光先生の再登板をお願いしたい。

ご意見ご要望ありがとうございました。引き続き皆様にとって有意義な研修会となるよう検討を重ねて参ります。



2021年度 神奈川支部総会・資格更新研修会について

新型コロナウイルス感染防止のため、2021年度日本臨床発達心理士会神奈川支部総会を2021年5月9日に開催いたします。詳細は4月上旬に支部ホームページ及びSOLTIにてお知らせいたします。

また、資格更新研修会もオンラインで実施する方向で検討しております。詳細が決まりましたら、当支部ホームページ・SOLTIで随時お知らせしていきますので、引き続き支部活動へのご理解とご協力のほどお願い申し上げます。



■ ニュースレターの配信について

ニュースレターの配信は、現在神奈川支部のWebサイトからのみにさせて頂いており、郵送はしていません。今回もホームページにアップした後、SOLTIにて「アップしました」と配信させて頂きました。お近くの会員の方でご存じない方がいらっしゃいましたら、是非神奈川支部のホームページをご覧くださいませよう、お知らせください。



<編集後記>

ワクチンの接種が始まったとはいえ、新型コロナウイルス感染の収束がなかなか見えて来ず、不安と向き合うような日々を過ごさねばならない昨今、会員の皆様もそれぞれの場所で奮闘されていることと思います。神奈川支部役員も新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先に考えながら、会員の皆様にお役に立てるような活動の形をずっと検討してきました。その様な中でやっと実施にこぎつけた今回の研修。ニュースレターもその研修を中心にお届けしましたが、いかがだったでしょうか。

今回のニュースレターにお気づきの点、ご意見・ご感想、今後のニュースレターに載せたらよいと思われる話題などありましたら、是非、支部メールアドレス(jacdpanagawa@gmail.com)にご連絡をお願いいたします。

新年度を迎えても、新型コロナウイルスに関しては、まだまだ先が見通せず、予断を許さない状況が今後も続きそうですが、みんなで知恵を出し合い、力を合わせていければと思います。どうぞ、会員の皆さまのご協力をお願いいたします。

(広報担当 橋爪 美津子・須田 恭平・佐藤 朋実)